



青森県・冬の八甲田山 (2019年3月、筆者撮影)

美の旅

片上絵梨子

初めてこの地を訪れたのは大学院生の時。

氷点下にもなる厳しい環境の中、冬山登山の装備を背負い、一日かけて登る。

悲しい歴史も持つこの極寒の地に、

なぜこんなにも魅了されるのか。

白銀世界を一望するため？

新雪を滑り降りるため？

惹かれる理由を探しつつ、冬山に登り続けたい。

(准教授・文芸メディア)

本の話

岡田ひろみ

澁澤龍彦

誕生日に本を買った。二十一、三歳の話だ。デコレーションされた包装紙を開けると、中には澁澤龍彦『フローラ追遙』(平凡社一九八七年)下写真参照という、美しい装幀が目をはく本が入っていた。いわゆる函入りのハードカバーで、特別な本であることが見ただけでも伝わってきた。

装幀は深谷かほる、函や表紙は、サミュエル・カーチスの『ツバキ属の研究』の一冊を用いている。植物にまつわるエッセイ集で、水仙から蘭まで二五種の『フローラ(花)』について綴られていた。本をめくると、取り上げられた花々の色鮮やかな図版がページいっぱいに掲載されている。

つまり、この友人は「本」だけでなく、私に「花束」をプレゼントして、幼少期からずっと桜嫌いだっただけに、桜に魅かれるようにしたのだ。

澁澤龍彦は、作家でフランス文学者で評論家である。『フローラ追遙』には、フランスをはじめ東西の、古代から現代までの歴史や文化や文学の見識に支えられた澁澤の「フローラ」への思いや体験などが平易な言葉で記されている。

例えば「桜」の項は、「幻妖なるフローラ」というタイトルがつけられた。幼少期からずっと桜嫌いだっただけに、桜に魅かれるようにしたのだ。

「むしろ梶井基次郎や坂口安吾や石川淳の文学を知ることによって、桜の花は私の中に生き返ったといってもよい。」「桜の樹の下には屍体が埋まっている」「桜の森の満開の下」「山桜」——考えてみると、これこそ本当の桜ではなかったかという気がしてくる。『昔物語』でも『太平記』でも能でも歌舞伎でもよいから、ちよっと参照してみれば、もともと桜の花とは幻妖なものであったというところがすぐわかるだろう。花の雲の下からは、いつでも盗賊だの狐だの白拍子だの狂女だのといったあやしいものが飛び出してくる可能性があるがあったのだ。」

贖罪

しかし『フローラ追遙』が、どのような内容の、どのような本なのかということ、すべて後で知ったことであって、函から本を取り出さなかつた私が、世界中から集められた花の絵図や、花にまつわる文を目にするのは、言葉にすることも憚られるくらいいじいぶん後になってからのことだった。なんともつたいないことをしたのである。

友人がどのような意図をもって、私にこの本をプレゼントしてくれたのかはわからないけれども、あらゆる意味で贅沢なこの本を、贈るに値する人間であると思ってくれていたのに、当時は受け止めることができなかった。

友人への、澁澤への贖罪にはならないかもしれないが、皆さんにこの本を紹介する次第である。知識欲を満たし、心を満たし、好奇心をかきたててくれる本である。本を読みたくるし、そこに

記された土地を歩きたくなる。本を贈る

本を贈ったり贈られたり、ということが学生時代にはわりとあったように思う。ただ、まつわる思い出は、実はほろ苦いものが多い。当時何度も読み返した村上春樹『ルウエイの森』は、知人から「ごめん、ちよっと、何か気持ち悪かった」と言われたことがある。まあ、好みでなければ仕方がない。またある時、ある人に、鈴木光司『リング』を贈ったこともある。どのようなシチュエーションだったかは書かないが、そもそもこの小説は自分で選んで読むとしても、贈り物には向かない。

本を贈る行為には人間性やセンスが現われる気がする。以前、内田保廣先生(本学部名誉教授)の還暦祝いを日本文学研究室の教員と助手で行ったときのことだ。「赤」をテーマにしたお祝いを一人千円以内で購入することになったのだが、ある先生の選んだ品が、なんと岩波文庫の赤帯二冊だった。書名は覚えていないが、確かロシア文学だった。なるほど、色んな意味で「赤」だ。洒落がきいている。大人の千円以内の贈り物なのだから、遊び心が大切だと心から思った。

電子書籍には触ることができない

あらゆるジャンルの本の電子書籍化が進んでいる。電車の中でも文庫本はもとより、週刊マンガ誌などを読んでいる高校生や大学生すらほとんど見かけなくなつた。みんなスマホだったり、タブレットを凝視している。荷物の一部を少なからず占める「本」は

重くて嵩張る、邪魔なものになりつつあるのだから、本を贈るという行為は、むしろ人よりも動いて見ている人の方が圧倒的に多いことに気がついた。イヤホンをしていない。では、みんな、いつどこでどのように本を読んでいるのだろうか。自宅かな。書店に出かけるのが好きだ。Amazonで購入することも多くなってきたけれど、目当ての本を探しながら、その周辺に置かれている本に目移りし、結局目的と違う本を購入してしまうプロセスも楽しい。必要な本よりも、ついつい今不必要な本を手に取り読みたくなるのはなぜだろう。レジで支払いを済ませ、さっきまで店のものだった本が自分のものになる瞬間ドキドキする。

十数年前、ある図書室で、岩波の古典文学大系のうちの一冊を読んでいた。ページの間に紅葉が一枚落ちてきた。誰かが挟みこんだのだろうか。ずいぶん古いものに見えた。忘れた頃に同じ本を開いたらまだ挟まっていた。今もあののだろうか。幾人もの人が本を開き、紅葉を見て同じように思い、同じようにそのまま本を閉じたことに思いを馳せる。

手垢で黒ずんだ古典籍が好きだ、と言った研究者がいた。何百年もの間、色々な人の手に渡り、黒ずむまで何度も読まれてきたという時間、本への情熱を感じることもできるからだという。

電子書籍を拒絶するわけではない。利点は数え切れないほどある。利点は数え切れないほどある。それでも世の中には、変わって良い物と、変わらなくて良いもの(もしくは残すべきもの)が必ずあり、紙媒体の書籍は、それが仮にすべて電子化されたとしても、並行して残すべき形態だと思ふ。

前述した澁澤龍彦の本に限らず、本はそもそも、その文章(ことば)だけでなく、装幀や本の大きさも含めて一つの作品なのだ。電子書籍には触れることができない。紅葉を挟むこともできない。(教授・日本語日本文学)

新学期を迎えるにあたって、昨年度を振り返ってみたいと思ひます。正直に言うと「夏頃にはコロナが終息する」と漠然と思つていました。流行病はインフルエenzaくらいしか知らないので、せいぜい数ヶ月と考えていたのです。

ところが、授業開始が延期になった頃に、スペイン風邪の本を読んで驚愕しました。流行には第二波・第三波があり、感染は数年続いていたのです。数ヶ月ではないうがいが奨励されています。しかし、歴史は単純に繰り返されるものではありません。百年前とは医学の進歩も衛生状況も違います。ワクチンも超特急で開発されました。この原稿が出る頃には接種が始まっているはず。人類は変異(強化)するウイルスに打ち勝ち、無事に東京オリンピックを開催できるでしょうか。結果は「神のみぞ知る」です。

予知能力はありませんが、コロナ禍が歴史教科書に載るのは間違いないでしょう。リーマンショックと東日本震災はもう載っています。こんなことばかりだと、百年後の高校生たちは「二一世紀を『悪夢のような時代』と感じるかも知れませんね。

でも悪いことばかりではありません。初めてのオンライン研究会で、日本全国・海外の方々と質疑応答した時は本当に感激しました。数年前に知人がZOOMの留学生と面談していて、何だか別世界のことと感じたのが嘘のようです。昨年度は出張先のホテルから、同時双方向授業をしました。とても不思議な感覚です。大学教師になつて二〇数年になりますが、昨年度が一番大きな変化の年でした。そしてもうコロナ前には戻れないでしょう。(堀新・教授・文芸教養)

なつたきつかけを、次のように書く。

「むしろ梶井基次郎や坂口安吾や石川淳の文学を知ることによって、桜の花は私の中に生き返ったといってもよい。」「桜の樹の下には屍体が埋まっている」「桜の森の満開の下」「山桜」——考えてみると、これこそ本当の桜ではなかったかという気がしてくる。『昔物語』でも『太平記』でも能でも歌舞伎でもよいから、ちよっと参照してみれば、もともと桜の花とは幻妖なものであったというところがすぐわかるだろう。花の雲の下からは、いつでも盗賊だの狐だの白拍子だの狂女だのといったあやしいものが飛び出してくる可能性があるがあったのだ。」

重くて嵩張る、邪魔なものになりつつあるのだから、本を贈るという行為は、むしろ人よりも動いて見ている人の方が圧倒的に多いことに気がついた。イヤホンをしていない。では、みんな、いつどこでどのように本を読んでいるのだろうか。自宅かな。書店に出かけるのが好きだ。Amazonで購入することも多くなってきたけれど、目当ての本を探しながら、その周辺に置かれている本に目移りし、結局目的と違う本を購入してしまうプロセスも楽しい。必要な本よりも、ついつい今不必要な本を手に取り読みたくなるのはなぜだろう。レジで支払いを済ませ、さっきまで店のものだった本が自分のものになる瞬間ドキドキする。



桜の図譜(左)と『フローラ追遙』函(右)

共立女子大学文学部報

共立女子大学文学部報 第137号
発行日 2021年4月1日
編集・発行 共立女子大学 文学部
〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1
発行責任者 深津謙一郎
創刊 1968年12月
題字 遠藤慎吾
第二代文芸学部長

学部報に関するご意見・ご感想を以下のメールアドレスまでお寄せください。
gakubuh@kyoritsu-wu.ac.jp
学部報は共立女子大学公式HPの「文学部」のコーナーでもお読みいただけます。
http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/

第137号 主目次

| | |
|-----|------------------------------|
| 第1面 | トップエッセイ 美の旅 大学随想 特集 |
| 第2面 | 「大学時代、これだけはしておきたい」 |
| 第3面 | 卒業生コラム 研究ノート 心象点描 |
| 第4面 | 各セクションから |

〈今号の一言〉
「大学生になった皆さんにひとつだけ申し上げます。今後、自分のことを生徒と呼ぶのはやめましょう。」 (深津)

大学随想

新学期を迎えるにあたって、昨年度を振り返ってみたいと思ひます。正直に言うと「夏頃にはコロナが終息する」と漠然と思つていました。流行病はインフルエenzaくらいしか知らないので、せいぜい数ヶ月と考えていたのです。

特集

大学時代、これだけはしておきたい

今や五割以上の高校生が大学に進学する時代です。合格の喜びはあっても、大学だからといって、特別な意識はないかもしれせん。しかし、学校生活最後の四年間をどう過ごすかは、とくに「不要不急」扱いされがちで「文芸」という学部を選んだ学生にとりて、きわめて重要です。大学時代にぜひともしておきたいことは、何か。文芸学部の教員が自らの体験をふまえて、思い思いに語ります。

憧れを少しずつ現実

岡見 さえ

文芸学部生の皆さん、進学、進級おめでとうございます。新たな学びが始まり、大学生活や将来の仕事のことなど、期待と不安が入り混じる頃でしょうか。思い返せば、私も同じでした。フランス文学科で学びましたが、入学時の未来図は極めて曖昧で、フランス語を使う文化関連の仕事が希望という程度。好きな専門を学ぶことで済んで満足していたのですが、じきに将来のために何かを始めようと思いいちました。まずは単純ながら、資格を目指しました。1年次からは博物館

文芸学部生の皆さん、進学、進級おめでとうございます。新たな学びが始まり、大学生活や将来の仕事のことなど、期待と不安が入り混じる頃でしょうか。思い返せば、私も同じでした。フランス文学科で学びましたが、入学時の未来図は極めて曖昧で、フランス語を使う文化関連の仕事が希望という程度。好きな専門を学ぶことで済んで満足していたのですが、じきに将来のために何かを始めようと思いいちました。まずは単純ながら、資格を目指しました。1年次からは博物館

教職課程だけは履修しておきたい

中本 恭平

「はつきりいって、最初はだいたい。先生があがってるみたい

これは、教育実習の最終日に生徒に書いてもらった感想である。生涯初めて教壇に立ったとき、まるでいきなりスキーマのジャンプ台に立たされて、さあ飛びなさいと言われたような心持ちだった。店頭販売のアルバイトで、公衆の面前で大声を出す経験はかきり積んでいたはずなのに、「声が小さい」と多くの生徒に言われた。「黒板のあちらこちらに字を書く」と、どれがどれかわからなくなるので、きちんと書いてほしいです」という感想も多く、板書が下手だった。しかし、度胸とか板書技術など

インカレサークルのススメ

浦野 郁

大学四年間、複数の大学が参加する、いわゆる「インカレ」のオーケストラに所属していた。楽器は数年で止めてしまったので、学生時代のサークル活動がその後も続く趣味に...という話は残念ながら出来そうもない。しかし改めて振り返ると、インカレサークルに所属していたことのメリットは実にいろいろあったと思う。以下にそのことを書いてみたい。

そのオーケストラは、私が通っていた女子大学と、医学系の某大学の学生を中心としていた。文系の私にとって、国家資格取得に向けた実習・課題に追われながら音楽に励み、学年末が来るたびに「留年」を回避すべく全力で試験に取り組む友人たちの姿は、大変良い刺激になった(真面目な友人がまさかの留年となり、皆で慰めたのも今となっては良い思い出である)。自分とは異なる分野を専攻し、異なる未来を思い描く仲間から得られるものは大きい。

予言の自己実現

佐久間砂由利

文芸学部在籍中は、ESS研究会(サークル)にどっぷり浸かり、春と夏の合宿やdiscussion, debate, speech contest等、他大学と一緒に活発に活動していた。

文芸学部在籍中は、ESS研究会(サークル)にどっぷり浸かり、春と夏の合宿やdiscussion, debate, speech contest等、他大学と一緒に活発に活動していた。卒業時、同期六人のグループを、The Cygnusと名付けた。天の象徴で、永遠に空を美しく飛び続ける夜空のビーナスは、自分たちの未来にピッタリと思った。その友人たちと、共立女子高時代のシガゴでのホームステイの友人たちは、今でもラインでお互い情報交換したり励まし合ったりして、かけがえのない宝物になっている。



シグナスの仲間たち(メンバー画)

子育てが一段落した頃、障害のある子の親の会の活動に参加し、それを機にNPO法人を立ち上げ、現在は行政から障害者地域活動支援センター「かもみく」の委託を受け、障害のある方々と共に活動(パン工房・カフェ・清掃等)をしている。障害の有無にかかわらず、仕事や片付けのように続けた。と、仕事を片付けるように続けた。と、仕事を片付けるように続けた。と、仕事を片付けるように続けた。

朝焼けのピニャコラーダ

福嶋 伸洋

高校を卒業していつしよに東京に出てきた友達のひとり、スキューバダイビングのインストラクターになって働くことにしたから大学を辞めて沖縄に行く、と言

で発つ日、数人の友達で、京急線沿いに住んでいる人の部屋に集まった。午後二時頃からビールを開け始めて、さびしくなるねとか、また会えるよとか、みんなで沖縄に行こうよとか話した。夜七時過ぎ、最寄り駅まで彼女を見送って部屋に戻ると、みんな無口になり、少し前まで大騒ぎでやっていたテレビゲームを淡々と

(准教授・文芸教養)

研究室から

日本語日本文学

春という季節を考えると、宮沢賢治の作品を思い浮かべる人はどれほどいるのでしょうか。

例えば『春と修羅』と題された詩集では、様々な春の情景が賢治の心象とともに描き出されています。

依然として儘ならないことの多い昨今ですが、賢治の短歌に「ひるもなほ星みる人の目にも似むさびしきつかれ早春の旅」とある通り、そこにあるはずなのに見えな

いものを、なお見ようとすると行為は、寂しい疲れを伴ってしまっても

です。

一進一退のような現状、ともすれば、以前なら何不自由なくできていたことがどうしても懐かし

く感じられてしまいます。それでも、その無力をただ受け入れて寄り添うということもまた、大切な

心の慰め方なのかもしれません。

『春と修羅』の詩篇「小岩井農場」のパート九の一部には、こうあります。「もうけつしてさびしくはない／なんべんさびしくないと

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

大学生になった皆さんにひとつだけ申します。今後、自分のことを生徒と呼ぶのはやめましょう。

そんなこと、どうでもよいと思われ

るかもしれませんが、でも、言葉には現実

に働きかけ、新しい現実を作り出す力があります。

そういうことでは、高校時代と変わら

ず自分のことを生徒だと認識している時点で、皆さんは何ひとつ変わっていません。いや、

変わる必要はない」と思う方も

いるかもしれませんが、変わって

もらわないと困ります。なぜなら

ば、高校までの中等教育と、大学

す。ですからせめて、自分で自分

からはじまる高等教育とでは、学

の

と云つたところで、またさびしくなるのはきまつてゐる／けれどもこ

こはこれだいいのだ／すべてさびしさと悲傷とを焚いて／ひとは透

明な軌道をすすむ」

春が来たなら、ぜひ賢治の作品に触れてみてください。

(助手・川崎)

英語英米文学

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

昨年

は行動を制限されること

が多く、受験生だった皆さんにと

っても何かと不自由を感じた一

年だったのではないのでしょうか。

本好きの私は「Winnie the pooh」(くまのプーさん)を自

宅で読みながら、早く実家の両親

や友人と会いたいと嘆いていま

した。

皆さんは「くまのプーさん」が

イギリスの児童小説であることを

知っていますか。プーさんはディ

ズニーのキャラクターとして有名

ですが、実はアメリカの出身では

ありません。

「A day without a friend is like a pot without a single drop a honey left inside.」(友

達に会えない日は一滴もはちみつ

びの質がだいぶ違ってくるからで

す。

学校教育法上でも、中等教育を

授けられる者を生徒、高等教育を

受ける者を学生と言います。その

意味でも、高等教育と

いう場所にふさわしい

のは、学生であって

生徒ではありません。

高等教育の場で学ぶた

めには、まずは生徒で

あることを卒業して

学生になる必要があり

ます。

学部長から

皆さんはまだ、その途上、とい

うのが正直なところだと思いま

す。ですからせめて、自分で自分

からはじまる高等教育とでは、学

の

皆さんは、その途上、とい

うのが正直なところだと思いま

す。ですからせめて、自分で自分

からはじまる高等教育とでは、学

の

が残っていないツボのようなも

の。

プーさんが友達を好物のハ

チミツに例えたように、私にとっ

て大切な人の存在や時間がどれほ

ど貴重なものなのかを改めて考え

させられる一年でした。

この春、慣れ親しんだ環境か

ら離れて新しい生活を始める方も

多いと思います。色々なことに疲

れてしまつたら、まず立ち止まっ

て大きく深呼吸をしてみましょう。

そして次に、あなたの大切な

人を心に思い浮かべれば、また頑

張れるはずです。(助手・御子貝)

去る二月、喜ばしいニュー

スがありました。フランス語のコ

ンクール「第二回フランコフォ

ニーを発見しよう」(日本にお

けるフランコフォニー推進会議は

主催)で、我がコースの四年生(当

時)の飯島華奈子さんと、三年生

の村井絢香さんがみごと受賞を果

たしたのです。

受賞したのは、「日本に住むフ

ランコフォンとサードプレイス」

についてのプレゼンテーション。

「日本におけるフランコフォニー

に関するルポルタージュ」部門で、

学生なのだ」と言葉で暗示をかけ

て欲しいのです。

フランス語フランス文学

では、生徒と学生はどう違うの

でしょうか。

ここで、先生が答えを教えてください。

この春、先生が答えを教えてください。

この春、先生が答えを教えてください。

この春から劇芸術研究室は全

員が揃います。昨年より赴任した

佐藤先生と入れ替わりにサバティ

カルに入った鈴木先生が戻って来

られます。鈴木先生がお戻りの際

は宝塚談義をしに研究室へ訪問し

てはいかがでしょう。

この「研究室への訪問」とい

うのは、大学生の特権の一つだと

私は思います。学生のうちは先生

の授業をまともな理由を

とです。ただし、免許取得者に限

らず「教育」に興味があれば個々

に受講できる授業群でもありま

す。

文芸学部では、卒業と同

時に次の五種の教員免許が

取得できます。「中学一種

(国語)」「中学一種(英語)」「

高校一種(国語)」「高校

一種(英語)」「高校一種(情

報)」。これらの教員免許は、

修得単位に応じて重複して取得す

ることも可能です。

教職課程を修めるメリットは

二つあります。一つは、教育につ

いて知ること。皆さんがなぜ小

教職委員会から

皆さんがなぜ小

皆さんがなぜ小

が近く、分からないかもしれませ

んが、社会に出て大学の先生に会

うというのは非常にハードルが高

いことです。

社会人として大学教授に何か

知識を教示してもらおう場合には仕

事として依頼をしなければなら

ず、謝礼という金銭も発生します。

学生のうちならば、他大学の先生

であろうが、アポを取って訪ねれ

ば惜しみなく知識や教養を教示し

てくれます。分からないことを親

切丁寧に教えてもらえるのは、学

生の特権なのです。

専門家である先生の研究室を

訪ねて、貪欲に知識・教養を吸収

してください。それが社会に出た

時に皆さんの大きな助けになりま

す。ただし、訪問する際は謙虚な

気持ちで節度を守り、最大級の礼

儀を持って伺いましょう。

(助手・青柳)

学生の皆さん、Kyonet 掲示が

届いたらまず全文に目を通すこ

と、添付資料があったらKyonet

にログインの上ダウンロードして

確認することを今一度徹底して

ください。

卒業に関わる重大なミスの多

うのには、大学生の特権の一つだと

私は思います。学生のうちは先生

の授業をまともな理由を

とです。ただし、免許取得者に限

らず「教育」に興味があれば個々

に受講できる授業群でもありま

す。

劇芸術

この春から劇芸術研究室は全

員が揃います。昨年より赴任した

佐藤先生と入れ替わりにサバティ

カルに入った鈴木先生が戻って来

られます。鈴木先生がお戻りの際

は宝塚談義をしに研究室へ訪問し

てはいかがでしょう。

この「研究室への訪問」とい

うのは、大学生の特権の一つだと

私は思います。学生のうちは先生

の授業をまともな理由を

とです。ただし、免許取得者に限

らず「教育」に興味があれば個々

に受講できる授業群でもありま

す。

この春から劇芸術研究室は全

員が揃います。昨年より赴任した

佐藤先生と入れ替わりにサバティ

カルに入った鈴木先生が戻って来

られます。鈴木先生がお戻りの際

は宝塚談義をしに研究室へ訪問し

てはいかがでしょう。

この「研究室への訪問」とい

うのは、大学生の特権の一つだと

私は思います。学生のうちは先生

の授業をまともな理由を

とです。ただし、免許取得者に限

らず「教育」に興味があれば個々

に受講できる授業群でもありま

す。

この春から劇芸術研究室は全

員が揃います。昨年より赴任した

佐藤先生と入れ替わりにサバティ

カルに入った鈴木先生が戻って来

られます。鈴木先生がお戻りの際

は宝塚談義をしに研究室へ訪問し

てはいかがでしょう。

この「研究室への訪問」とい

うのは、大学生の特権の一つだと

私は思います。学生のうちは先生

の授業をまともな理由を

とです。ただし、免許取得者に限

らず「教育」に興味があれば個々

に受講できる授業群でもありま

す。

この春から劇芸術研究室は全

員が揃います。昨年より赴任した

佐藤先生と入れ替わりにサバティ

カルに入った鈴木先生が戻って来

られます。鈴木先生がお戻りの際

は宝塚談義をしに研究室へ訪問し

てはいかがでしょう。

この「研究室への訪問」とい

うのは、大学生の特権の一つだと

私は思います。学生のうちは先生

の授業をまともな理由を

とです。ただし、免許取得者に限

らず「教育」に興味があれば個々

に受講できる授業群でもありま

す。

この春から劇芸術研究室は全

員が揃います。昨年より赴任した

佐藤先生と入れ替わりにサバティ

カルに入った鈴木先生が戻って来

られます。鈴木先生がお戻りの際

は宝塚談義をしに研究室へ訪問し

てはいかがでしょう。

この「研究室への訪問」とい

うのは、大学生の特権の一つだと

私は思います。学生のうちは先生

の授業をまともな理由を

とです。ただし、免許取得者に限

らず「教育」に興味があれば個々

に受講できる授業群でもありま

す。

この春から劇芸術研究室は全

員が揃います。昨年より赴任した

佐藤先生と入れ替わりにサバティ

カルに入った鈴木先生が戻って来

られます。鈴木先生がお戻りの際

は宝塚談義をしに研究室へ訪問し

てはいかがでしょう。

この「研究室への訪問」とい

うのは、大学生の特権の一つだと

私は思います。学生のうちは先生

の授業をまともな理由を

とです。ただし、免許取得者に限

らず「教育」に興味があれば個々

に受講できる授業群でもありま

す。

くは、掲示やガイダンスでの説明、

配布資料をしっかり確認してい

ないことからは起ります。

もちろん、人それぞれに計画

があると思いますが、大学に四

年以上在籍したって問題ありませ

ん(通算して八年以上はいられま

せん)。

でも、ちょっとした確認ミス

のせいで本来卒業するつもりだっ

た年次を逃してしまうのは残念で

す。また、案内通りの対応ができ

ないということは、多くの人に迷

惑をかけることにもなります。そ

うならないためにも、大学から発

信される情報を常に整理して、ス

ケジュール管理を徹底しましよ

う。

学生生活において事務手続き

関連を滞りなくすすめるスキル

は、卒業した後も必ず役立ちます。

わからないことがあったら、す

ぐに確認しましょう。どこに尋ね

たらいいかわからない問題や相談

は、各研究室の助手に助けを求め

てください。いつでもお待ちして

います。(助手・鈴木)

以下に紹介します。

「一期一会」(共立に入學して

いなければ出会えなかった友達が

いることを、卒業間近に改めて実

感したため)、「一所懸命」(いつ

でもこんな風に生きていたい!

と思える四字熟語です)、「才色兼

備」(賢く美しい女性になりたい

から)、「七転八起」(どんなに転

んでも何度でも立ち上がって一歩

でも前に進み続ける自分でした

い。なんかしんどそうだから)、「磨

杵作針」(何事もコツコツ行っ

とで結果が付いてくると実感がし

たため)。

他には、「百花繚乱 品行方正、

大胆不敵、誠心誠意、因果応報、

自由闊達、臥薪嘗胆」など。皆さ

ん、コメントも添えて送ってけれ

ました。

変化とは、同じ環境に長く

いればいるほど大変なストレスと

なるものですが、このような未曾

有の事態に陥りながらも、

二〇二〇年度卒業の皆さんは柔軟

に対応して無事に卒業提出まで終

えました。

本当にお疲れさまでした。

(助手・西村)

造形芸術(美術史)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

文芸教養(文化)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

文芸メディア

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ

んに好きな四文字熟語を募集しま

す。

皆さんは、「読書」をどのように

定義しますか。

読書の定義は、読書をする目的

や場所、どのような本を読むかな

ど人によってさまざまであると思

います。

皆さんの二〇二〇年を、読書

という観点から振り返って

みてください。読書時間が

増加あるいは減少した、紙

の本ではなく電子書籍を読

むようになった、これまで

全く関心がなかった分野や

ジャンルの本を読むようにな

った、好きな作家ができ

なった、いろいろな発見があるかも

し

今年度から、創刊当時と同じ

く、年四回(四月、七月、十月、

一月)の発行にする。学部報が

より身近になり、多くの反応が

あることを期待したい。(半沢)

二〇二〇年度の卒業生の皆さ